

姫路といえば、「白鷺城」、明石といえば、「明石城」、神戸といえば「港町」（本当は「花隈城」とか「兵庫城」言いたい）、姫路、明石のように城址が残っていない）と誰でも知っている。

姫路・明石・神戸はゆかりの文学も多い。私は小説を書いているが、本職は造園家だ。神戸の総合福祉ゾーン「しあわせの村」や「布引ハーブ園」などの計画・設計・管理に携わった。そこで本稿で、NHK文化センター主催・私の文学散歩講座で行った姫路・明石・神戸の幾つかの場所を花と文学に焦点を当てて逍遙してみたい。

1. お夏清十郎の世界

(1) 史実

お夏清十郎の物語は、治水や新田開発に力を注ぎ名君といわれた姫路城主榊原忠次（慶長10（1605）〜寛文5（1665）年）の時代に実際に起こった事件だった。井原西鶴の『好色五人女』^{（お夏清十郎）}「妾姫路清十郎物語」や近松門左

衛門「おなつ清十郎五十年忌歌念仏」の影響を受けているが、事件は後年聞き書きによって記録された『村翁夜話集』の「おなつ清十郎事聞書」によって事実だったことが証明されている。しかし、事件が起こった年について、姫路藩の歴代藩主の記録や寺社、地名由来等をまとめた『村翁夜話集』は万治2（1660）年説だが、他に諸説がある。現在は寛文2（1662）年が通説になっている。姫路文学館の『お夏清十郎ものがたり』によると、『玉滴隠見』巻十五には、〈寛文2（1662）年、お夏との密通が発覚した清十郎が但馬屋を追い出され、その身を案じたお夏もあとを追って出た。〉と書かれ、肥前平戸藩主松浦静山の書いた『甲子夜話』巻二十八や前述の『玉滴隠見』巻十五も寛文2（1662）年説を唱えており、西鶴の『好色五人女』に四月十八日とあり、此二本をあわせ見れば、清十郎が罪せられしは寛文2（1662）年なるべしと書いている。

この悲恋は当時のやり歌にのってたちま

ち諸国に伝搬していった。井原西鶴は『妾姫路清十郎物語』を書いて江戸悲恋物語の定番としたし、『村翁夜話集』では「おなつは後に小豆島に縁づいた。」とあるが、西鶴はお夏を狂乱させ、西鶴や近松後、歌舞伎狂言や坪内逍遙の舞踏劇『お夏狂乱』、坂東玉三郎の『お夏狂乱』や日本歌劇の『お夏狂乱』、銀幕の『お夏清十郎』や宝塚の『お夏狂乱』や東京シティ・パレイ団の『お夏・清十郎』や楠木清方画の『お夏清十郎物語』など悲恋として多方面に広がっていった。

筆者も事件後、お夏が小豆島へ嫁いでいったではおもしろくないし、清十郎の姫路船場川での刑死は何であったのかと思った。多方面の芸術家が「悲恋・お夏清十郎」に情熱を傾けた。

その中で平岩弓枝の『お夏清十郎』読んだ。それは今までと違う「お夏清十郎」を感じた。現代から見た「お夏清十郎」だ。また書写山田教寺「常行堂」の舞台で平岩弓枝の舞踏劇『書写山幻想 お夏清十郎』が上演され

た。

平岩弓枝の小説は、大学助手唐島淳子から借りた「お夏清十郎恋物語の真相」という資料と幻想の中のお夏の声に基づき「お夏清十郎」の真相を推理していた。以下、真相らしきものを列挙する。

室津の賀茂神社の祭礼で御輿の行列の先頭は、龍冠をつけた遊女の長の美女室君だ。室君はお夏の母で、室津の遊女普賢だ。パトロンは姫路の但馬屋九左衛門だが、室君は幼なじみの造り酒屋和泉屋清左衛門（清十郎の父）が好きだったらしい。お夏は足の親指の形から但馬屋九左衛門の子に間違いない、と本宅の但馬屋九左衛門に引き取られる。

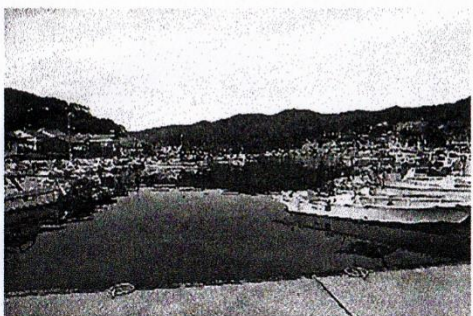
お夏と和泉屋の清十郎と干鯛問屋浜屋の安二郎は幼なじみだった。

お夏は、母（室君）は殺された、と言う。賀茂の祭礼の日、室君は風邪をこじらせた。お夏は室君に男子が誕生したら本妻の地位を奪われることを恐れた但馬屋の本妻「おとよ」が送ってきた南天の葉を煎じた薬を飲ませる。南天の実は喉の薬として有名だが、一度にたくさん飲むと「心不全」となる可能性があるのだ。それは母の早い回復を願うお夏がたくさん母に飲ますことを予想し完全犯罪を目論

んだおとよの策略だった。

そろそろ「お夏清十郎」の真相を書こう。但馬屋九左衛門は浜屋安二郎をお夏の婿にしたかった。ところがお夏が清十郎を好きなことを知っていた安二郎は、但馬屋へ清十郎の素性を隠して奉公人として紹介するが、九左衛門は清十郎が気に入らない。安二郎は清十郎とお夏を駆け落ちさせてやろうとして室津から船に乗せようとしたが、嵐が来て船が出せなかった。追いついた九左衛門と清十郎が争ったのは室津が舞台であり、和泉屋の庭だった、とあとで出家した安二郎が書いている。

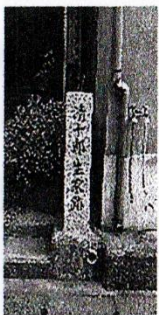
筆者も文学散歩で「書写山田教寺」に行ったが、三つの堂（講堂・食堂・常行堂）は、平岩弓枝の舞踏劇『書写山幻想 お夏清十郎』が演じら



▲室津港



▲南天の花



▲清十郎生家跡（室津）

れた「常行堂」やトム・クルーズ『ラスト・サムライ』の「食堂」や平成15年のNHK大河ドラマ『武蔵』で武蔵と法蔵院流槍術との決闘の場として夜間撮影された「三つの堂」の広場が印象に残っている。（つづく）